

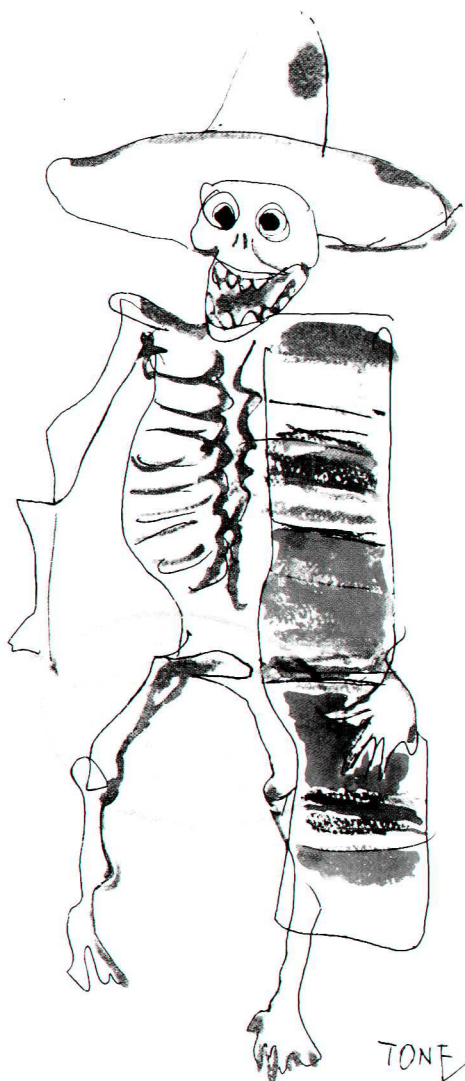
メキシコ曼陀羅
利根山光人



メキシコ曼陀羅

利根山光人

小沢書店



利根山光人（とねやま・こうじん）

1921年 東京に生まれる。

1943年 早稲田大学文学部卒業。

1959年 メキシコ国立芸術院にて個展。帰途アメリカ、ヨーロッパ、インド各地を訪れる。

1962年 マヤ遺跡などを訪れる。マヤ拓本採集。

1972年 メキシコ政府よりアギラ・アステカ文化勲章を贈られる。

著書に『マヤ』（暮らしの手帖社）、『古代メキシコ拓本集』（美術出版社）、『メキシコの民芸』（平凡社）などがある。

メキシコ曼陀羅

定価1400円

昭和 56 年 12 月 20 日 初版発行

著 者 利根山光人

発行者 長谷川郁夫

発行所 株式会社 小沢書店

東京都千代田区富士見 2-5-12 Tel. (03) 263-9218

印刷 凸版印刷 製本 大口製本

©K. Toneyama, 1981

Printed in Japan

レオナルドの沈黙 美の変貌	中山公男	2000円
モローの豎琴 世紀末の美術	中山公男	1600円
絵画が偉大であった時代	阿部良雄	3200円
プラドで見た夢 スバインの魂	神吉敬三	1800円
ルネサンスの謝肉祭 ジャック・カロ	成瀬駒男	1700円
画家たちの祝祭	堀越孝一	3500円
ギリシアの秋	饗庭孝男	1200円
クリュニーの天使	大久保喬樹	1900円
ナヴァホの砂絵 詩的アメリカ	金関寿夫	1800円
夢を耕す 幻想絵画論	岡田隆彦	2000円
かたちの発見 時空間を超えて	岡田隆彦	2000円

メキシコ曼陀羅 目次

I メキシコ曼陀羅

メヒコ・マヒコ 9

太陽神タヤウの祭り 16

ウイチョルの祭り 21

パスクワル酋長 33

精霊の夜 35

聖週の町タスコ 40

風月延年 44

ドクトル・萩田 48

降ってわいた叙勲の報 54

トトナコの祭り 58

カンペチェの町 65

パナマ・サンブラスの芸術 70

ドクトル・ピアヌエバ 75

青春の挫折 78

望郷の歌 84

Ⅱ いけにえの美学

いけにえの美学 91

マヤ文明に魅せられて 108

マヤ幻想 113

オルメカの謎 122

Ⅲ メキシコ・ルネサンス

メキシコ・ルネサンス 133

民衆に語りかける——リベラ 143

火山のような意志——シケイロス 158

ウスムラサキの印象——タマヨ 171

本能の交信——トレド 179

大地の匂い——北川民次 185

ピバ・メヒコ——エイゼンシュテインとメキシコの画家たち 193

あとがき 197

初出一覧 203

装幀 中島かほる

メキシコ曼陀羅

I
メキシコ曼陀羅

メヒコ・マヒコ

私がここ十何年もメキシコ各地を遍歴することになってしまったのは一体何のためなのだろうか――。

一九五五年に上野の森で開かれたメキシコ美術展がひとつの契機となり、民族的なメキシコ美術にひかれて海を渡ったのは一九五九年であった。そして、メキシコの現代美術にひかれて出かけた私は、次第にメキシコの古代美術のイマジネーションにひきこまれていったのである。その後、マヤやアステカの古跡をたずねているうちに、高原やジャングルの奥深く住むインディオの生活に心を奪われていったのも、今となってみればいわば当然の帰結のように思える。モンゴロイドであるというインディオ達への親近感、それにもまして、そこには二十世紀の今日、古代が中世が目の前に生きていたからである。

インディオ達はスペインのコンキスタドル（征服者達）の目からひたすらのがれて山中にこもり、古代さながらの民俗の中に生きている。天然の峻しい山河がひとつの城壁となり、防波

堤となってあわただしい現代文明の侵略の手がまだとどいていない。今世紀最大の武器となったコンピュータもすでにその限界が見えている。フランスの作家ル・クレジオは、インディオの沈黙を通して現代文明を批判している『悪魔抜い』が、次の時代に生きのこれるのは恐らくインディオであろうという考えが私の中でも日増しに強くなっている。月世界にもそのうち人間を輸出するようになるかもしれないが、その反面地上での、この人間生活への愛着がより以上につのってくるであろうこともまた確かである。山中ふかく住むインディオ達によってつくられているメキシコの民芸を見ていると、人間の叡知がコンピュータよりもはるかに正確な手ごたえをもっていることを教えている。そして人間の手の世界が大きく優先している世界が、まだはっきり目で見えるかたちでのこっているのだ。

もし、東京やニューヨークが現代のテクノロジを背景にしたひとつの生き方とすれば、「もうひとつの人生」が広大な中南米にはまだ存在しているのだ。私はこの二つの生き方の中に現代があるように思えてならない。いや、私の興味の中心がそこにあるのだと言わなければならないだろう。私の旅は言ってみれば、この二つの点を行ったり来たりすることにある。

メキシコ観光省の宣伝なのでもあろうか、さきごろメキシコの国際空港の入口に、夜になると私の好きなフクロウのデザインにメヒコ・マヒコ (MEXICO MAGICO) の文字をあしらったネオンがつく。

魔法の国メヒコ。たしかにそうかもしれない。火と神話の国メキシコでは、シティーの街頭で夜な夜な道ゆく人の前で火を吹いて見せる男がいるくらいだから。このあいだも、空港に人を迎えて夜の都心に帰ろうとすると、信号の前でひとりの男が立ちふさがった。よく見ると、顔はビエロに彩色していて、口にふくんだガソリンに火をつけ停車する車に炎の息を吹きつけてはチップを稼いでいた。流れる車の騒音とくらがりがりからあらわれて火を吹いていたビエロの顔が、文字どおりメヒコ・マヒコ——魔法の国メヒコ——の宣伝文句と重なって、いまもわたしの脳裏からはなれない。

そうした衝撃的なイメージは、たとえばメキシコの数ある民芸のなかでもっとも俗悪な色彩とグロテスクなイメージでみたされている、オクミチョの陶人形を思い出させる。オクミチョという部落はミチョアカン州にあって、タラスコ族の住むバツクァロ湖の周辺にあるのだが、なぜその部落だけがメキシコ民芸のなかでもあのようにグロテスクな民芸を生産するのだろうか、一度調べてみたいと思っている。民芸館の前館長をしたカルロス・エスベヘル氏はオクミチョの陶芸を愛してコレクションしている。いかにも彼らしいところが面白い。

グロテスクとは言っても、そのなかには人間の欲望やユーモアが露出していて、そこにはまぎれもなく魔法の国メキシコのもっているひとつの生理が息づいている。

エスベヘル氏は数年前バリの中心街の画廊で、メキシコ民芸のもっとも幻想的なものを三つだけ選んで展示し、成功をおさめたことがあった。その三つとは、まずオクミチョの陶人形。

プエブラ山岳地帯で生産されるアマテ樹皮紙にゲレロ州の山中で描かれる極彩色画のごく良いもの。それに、メキシコ市郊外に住むリナレス一家によってつくられているファンタジックな動物怪獣の張り細工であった。

ファンタジックと言えば、メキシコ民芸の宝庫であるオアハカ地方のアラソラ村に住む女陶工テオドラ・ブランコをつくる陶人形などもそのひとつであろう。サボテカ族の顔立ちをしたテラコッタの人形像は、頭上から下半身にいたるまで、花模様や壺や動物のイメージでみだされている。

メキシコ人のなかには、なにか東洋の空白とはちがって、空白を埋めつくしてやまない独自の装飾感覚がある。言い換えればマンガラ精神である。遠くさかのばれば、古代マヤ族の神聖文字やアステカのカレンダー・ストーンなどにも端的に見ることができる。おそらく古代マヤの人たちは空白に対する恐怖を打ち消すためにコバル（樹脂香料）を焚き、怪奇な神像や神聖文字で神殿の壁や階段を呪文のように埋めつくしていったのであろう。

また十六世紀になって、スペインのコンキスタドル（侵略者）によって高原の神話はもうくも破壊されてしまうのだが、その後ヌエバ・エスパニア（新スペイン）とよばれた植民地時代にも、埋めつくしてやまないスペイン・バロックが潮のごとく流れこんでくる。しかし、やがてそれを打ち消そうとして展開されてゆく革命期の壁画運動が、リベラ、オロスコ、シケイロス

等によって烽火のごとくひろがってゆく。はげしい民族的なテーマでまたしても公共的な壁面をマンダラのように埋めつくしてゆく。

こんにち多様な様相をもったメキシコ文化は、古代文化、すなわちプレ・エスパニア時代のものと、三世紀にわたるスペイン・バロック時代のものとがたがいにミックスして、独自の混合文化を醸成し、そしてそれは民芸の果てにまで浸透しているのだ。

たとえば、スペイン東部の盆地タラベラの陶器が世界の東西に拡散し、スペインのアスレホとよばれるタイル文様や東洋の形態まで摂取しながら、十六世紀の終りごろメキシコのプエブラ市に定着して繁栄しているのを目のあたりにすることができし、メキシコ州のメテペックでつくられる巨大な「生命の木」には、スペイン・バロックの執念とインディオ文化がミックスしてひとつの幻覚の世界を生み出している。

それにしても、かつての栄光ある古代文明のかずかずが、わずかな馬と銃火器によって破壊され、家畜のごとく追いたてられ酷使されてきたインディオ達の、その大いなるかなしみを見ないわけにはいかない。

白人をきらってナヤリット州の山中深く住むウィチョル族はアステカの一族だが、幻のコーラ族となり合わせに、古代さながらのしきたりのなかでひっそりとくらしている。手製のヴァイオリンを弾き、華麗な民族衣装に身をつつんだウィチョル族の帯やボルサ（袋）には、伝